



2025 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 新コスモス電機株式会社
代表者名 代表取締役社長 高橋 良典
(東証スタンダード市場・コード 6824)
問合せ先 取締役上席執行役員
管理本部長 山田 芳穂
(TEL. 06 - 6308 - 3112)

新コスモス電機グループ「中期経営計画 2025 - 2027」策定に関するお知らせ

当社は、2025 年 5 月 15 日開催の取締役会において、2025 年 4 月期～2028 年 3 月期を計画期間とする「中期経営計画 2025 - 2027」を決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 「中期経営計画 2025 - 2027」について

現中期経営計画が 2025 年 3 月期に最終期となることから、現計画の振り返りを行うとともに当社グループを取り巻く事業環境認識に基づき、新たに「中期経営計画 2025 - 2027」を策定いたしました。

2. 添付資料

「中期経営計画 2025 - 2027」の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以上

新コスモス電機グループ
「中期経営計画2025-2027」

2025年5月15日



新コスモス電機株式会社

目次

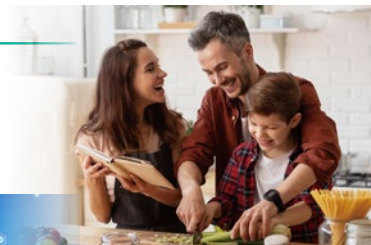
- 1. 新コスモス電機グループの基本となる考え方……………P.3～5
- 2. 「中期経営計画2022-2024」の振り返り……………P.6～9
- 3. 「中期経営計画2025-2027」について……………P.10～24
- 4. 「中期経営計画2025-2027」の参考資料……………P.25～28

1

新コスモス電機グループの基本となる考え方

1-1 新コスモス電機グループの基本となる考え方

1 世界中のガス事故をなくす
新コスモス電機が培ったガス保安技術を、グローバルに展開する



2 安全・安心・快適な環境創りに貢献
変化する時代に対応して、「新たな価値」を提供できる会社となる



3 多様な人材が活躍でき、多様なアイデアや経験を活かすことができる土壌づくり
人的資本経営・サステナビリティ経営を推進する



センシング技術を極め、3つの考え方を実現し世界中に貢献します

1-2 新コスモス電機グループの基本となる考え方

世界でたくさん起きているガス事故をなくす

世界中で、多くのガス事故が発生し、多くの死傷者が出ています。

私たちのガスセンサテクノロジーで、それらの事故をなくすための活動を、これまで以上にスピーディーに実施します。

世界のガス事故事例(2023年以降)

2023年11月
アメリカ・ニューヨーク州
集合住宅ビル
負傷者：15名

2023年6月
フランス・パリ
建物
死者：1名
負傷者：29名

2024年4月
ベトナム・クアンニン省
炭鉱トンネル
死者：4名
負傷者：7名

2023年6月
中国・寧夏回族自治区
焼肉店
死者：31名
負傷者：7名

2023年3月
アメリカ・ペンシルベニア州
チョコレート工場
死者：3名
負傷者：8名

2024年12月
イタリア・フィレンツェ
ガス精製所
死者：2名
負傷者：9名

2023年3月
インド・パンジャブ州
工場
死者：11名

2025年2月
台湾・台中市
百貨店
死者：4名
負傷者：26名

都市ガス事故死傷者数の海外比較

	死亡者	負傷者
フランス	10名	43名
イタリア	23名	385名
イギリス	10名	330名
米国	50名	210名
日本	1名	11名

(出典) 経済産業省 第4回産業構造審議会 保安分科会
ガス安全小委員会(2014年6月9日) 参考資料2-1より抜粋
※2010年(フランスは2011年)のデータ

2 「中期経営計画2022-2024」の振り返り

2-1 中期経営計画2022-2024の目標と結果

定性目標

「新たな挑戦、新たな価値創造に取り組み、持続可能な成長軌道を歩むための第一歩」と位置づけ、「お客様に選ばれ社会に役立つ新コスモス電機グループ」を目指す

定量目標 (2025年3月期)

	計画値	実績値
連結売上高	416.6億円	421.5億円
海外売上高比率	40.0%以上	46.2%
営業利益	41億円	51.5億円
営業利益率	9.8%	12.2%
ROE	5.3%	7.3%

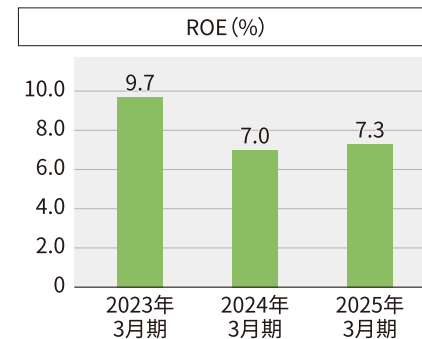
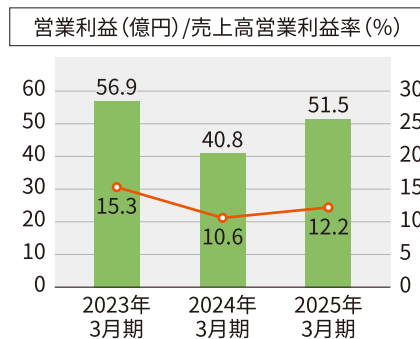
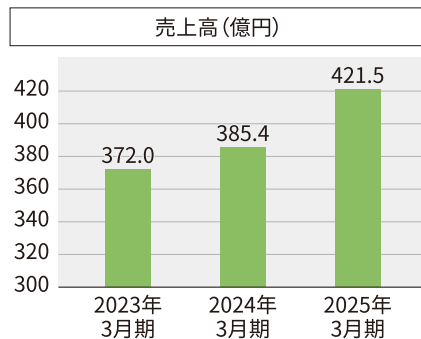
2025年3月期は、2024年5月に修正発表した計画に対し、定量目標全てを達成することができました。

特に、海外売上高比率については北米向け電池式メタン警報器の需要が増え、それに対応することで売上が伸びました。

営業利益については、価格改定の効果や生産コスト低減への取り組みによる売上原価率の改善、さらに経費削減などから計画を上回りました。

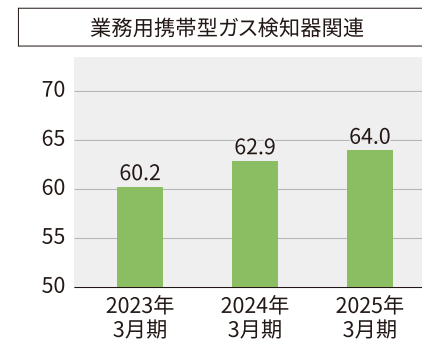
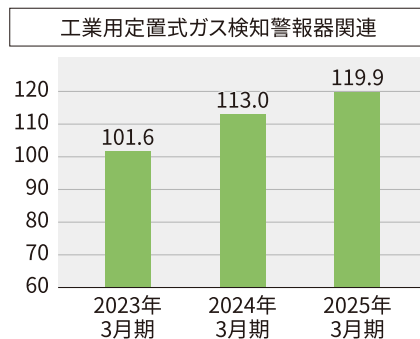
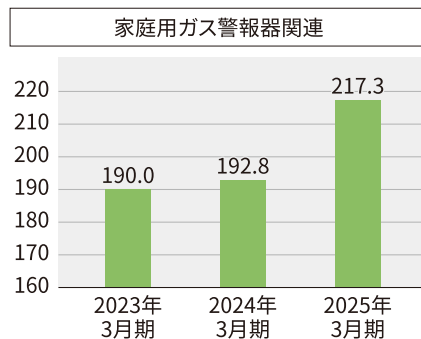
2-2 中期経営計画2022-2024の振り返り

実績推移



セグメント別
売上高推移

単位：億円



成長戦略	グローバル展開の推進	・パリ事務所の設立 ・台湾事務所の現地法人化 ・北米・中国での家庭用ガス警報器の販売強化
	ガスセンサ展開による新市場の創出	・中国・欧州での車載用水素センサの展開 ・ウェルネス・ヘルスケア分野への取り組み着手
	保安の高度化やニーズの変化への対応	・電池式メタン警報器の量産体制の構築 ・半導体市場向けガス検知器の開発 ・メンテナンス事業強化に向けた子会社の統合
基盤戦略	生産体制とサプライチェーンの見直し	・大阪にガスセンサを生産する「淀川工場」建設 ・中国・遼寧に中国向け製品を生産する「遼寧工場」建設 ・北米向け電池式メタン警報器を生産する「メキシコ工場」稼働
	生産性の向上	・DX推進部門の設置
	ガバナンス経営の推進	・内部監査室の強化 ・国際規範に沿ったガバナンス強化への取り組み
	グループ経営の強化	・新コスモス電機(株)とフィガロ技研(株)の開発・生産連携の推進
サステナビリティ戦略	CO ₂ 排出削減を通じて、社会のカーボン量削減に貢献	・Scope1、2の目標設定のための実態把握完了
	クリーンエネルギーの安全な利用への貢献	・FCEV用センサなどカーボンニュートラル貢献のための商品化の実現

3

「中期経営計画2025-2027」について

3-1 「中期経営計画2025-2027」の定性目標

定性目標

MEMSガスセンサ技術を軸にグローバルに展開し、
ガス事故ゼロとカーボンニュートラル社会の実現に貢献する

3-2 「中期経営計画2025-2027」の考え方

当中期経営計画期間は「展開と拡張」のための3年間とします。

これまでの「投資」の収益化を図る「展開」では主に北米向け電池式メタン警報器の市場拡大を、
将来に向けた「拡張」としては主に欧州におけるカーボンニュートラル(水素)市場の基盤づくり、新たな市場開拓に取り組みます。

中期経営計画2022-2024

投資

- ・ 淀川工場開所
- ・ メキシコ工場稼働
- ・ 台湾事務所現地法人化
- ・ 半導体市場向けガス検知器の新製品開発
- ・ パリ事務所設立



淀川工場



パリ事務所

中期経営計画2025-2027

展開 (投資の収益化)

- ・ 北米向け電池式メタン警報器の市場拡大
- ・ 半導体市場における売上拡大
- ・ MEMSガスセンサの量・質の充実



北米向け
電池式メタン警報器



半導体市場向け
ガス検知器



拡張

(将来に向けた新市場・新事業の基盤づくり)

- ・ 欧州を中心としたカーボンニュートラル(水素)市場の基盤づくり
- ・ 電池式LPガス・水素警報器の開発・普及



MEMSガスセンサ

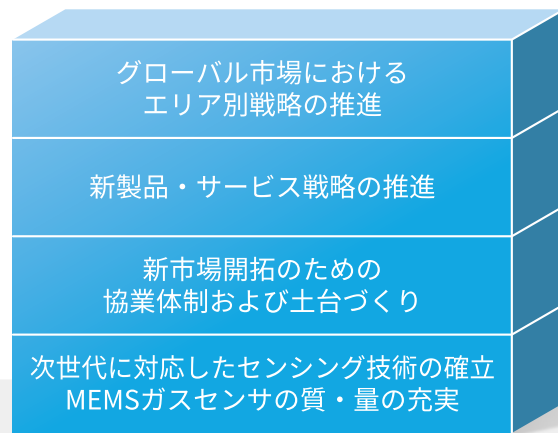


車載用
水素ディテクタ

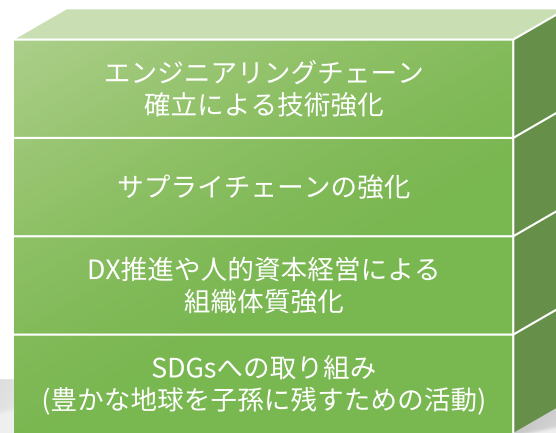
3-3 「中期経営計画2025-2027」の戦略体系

基本となる考え方のもと、成長戦略として投資の収益化と将来に向けた拡張を図りつつ、それらを支える基盤戦略を遂行します。

成長戦略



基盤戦略



基本となる考え方

- ・世界中のガス事故をなくす
- ・安全・安心・快適な環境創りに貢献
- ・多様な人材が活躍でき、多様なアイデアや経験を活かすことができる土壌づくり

経営環境の変化に対応するため、グローバル市場を視野に入れ事業ポートフォリオを変革させます。

「中期経営計画2025-2027」は、展開と拡張の時期と位置づけ、主となる市場を日本国内中心から『北米、アジア（日本含む）、欧州』の3エリアにシフトし、特に北米での成長軌道確立を目指します。

北 米

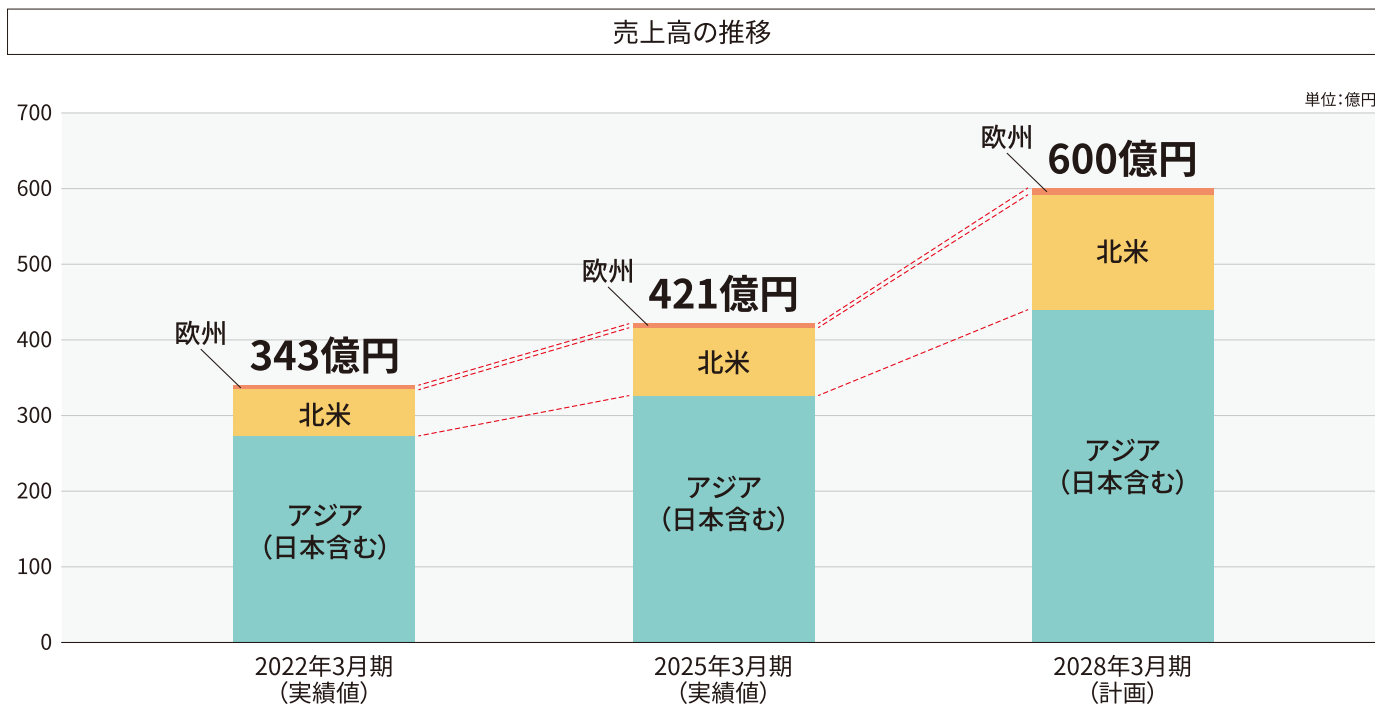
- ・家庭用電池式メタン警報器の市場拡大
- ・冷媒漏えい検知モジュールの普及拡大

欧 州

- ・カーボンニュートラル（水素）市場の基盤づくり

アジア（日本含む）

- ・産業用ガス検知警報器の売上拡大
- ・家庭用電池式メタン・LPガス警報器の普及



- ・北米では配管の老朽化に伴うガス爆発事故が増加傾向
- ・2018年にニューヨークのエネルギー事業者Consolidated Edison, Inc. (Con Edison) が、業界に先駆けて電池式メタン警報器の設置を開始
- ・メイン州 (2022年1月)・ニューヨーク市 (2023年12月) で家庭用ガス警報器の設置が義務化
- ・現在もイリノイ州他、計8つの州で法令案が提出されており、法令化の可能性がある
- ・2023年ホームセンター大手Lowe'sで電池式メタン警報器の販売開始



約350万世帯

メイン州
ニューヨーク市

約2,000万世帯※

メイン州
ニューヨーク市
イリノイ州
他

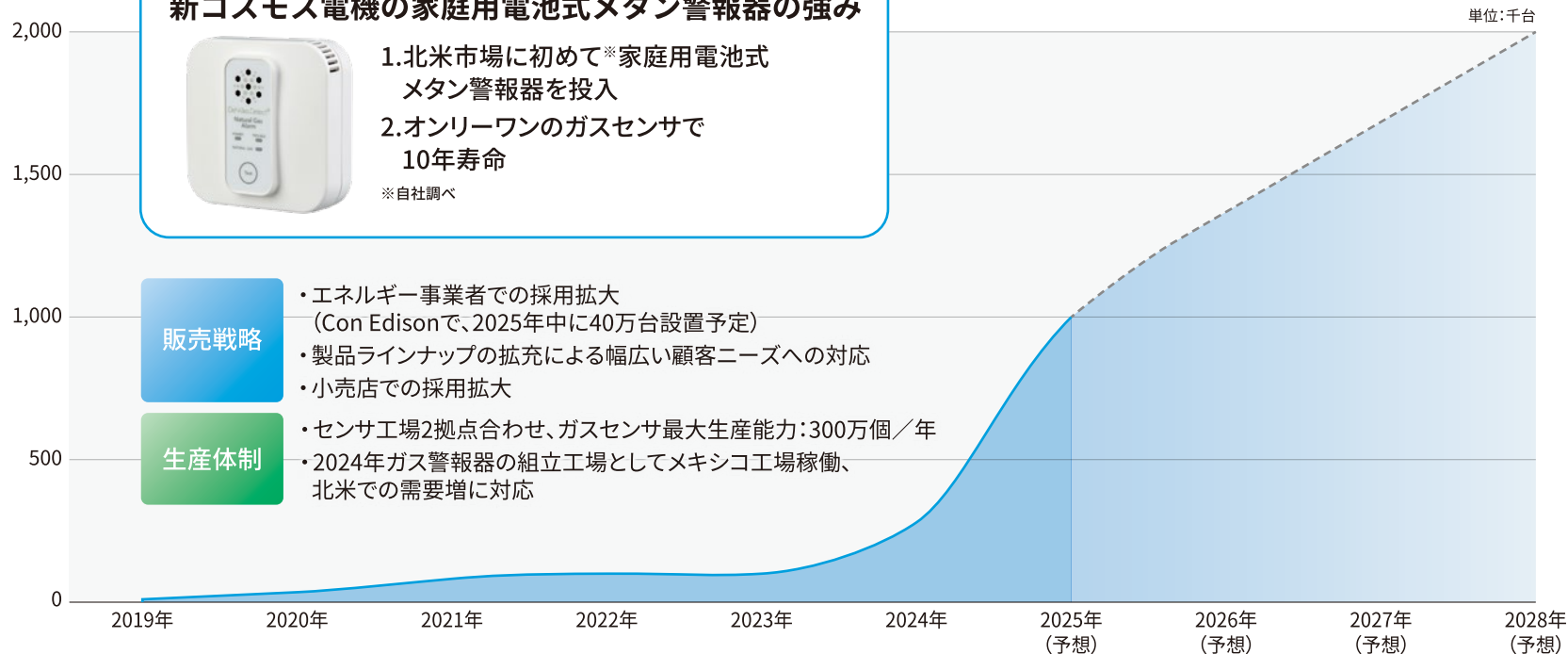
※法令案が提出されている8州の合計、日本の都市ガス需要件数約2,800万件 (令和6年6月時点 経済産業省資源エネルギー庁HPより)

新コスモス電機の家庭用電池式メタン警報器の強み



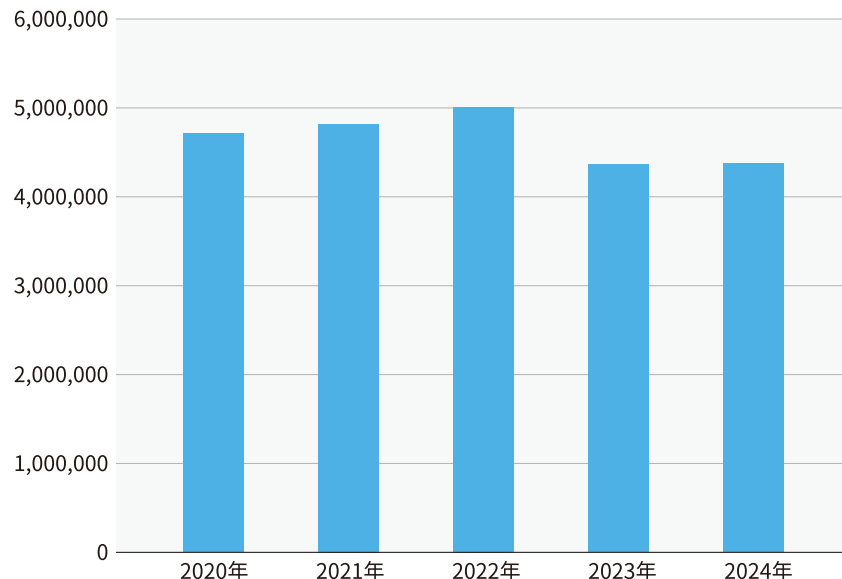
1. 北米市場に初めて※家庭用電池式メタン警報器を投入
2. オンリーワンのガスセンサで10年寿命

※自社調べ



安定した家庭用ガス警報器市場において、トップシェアを維持し、さらなるシェアアップを図ります。

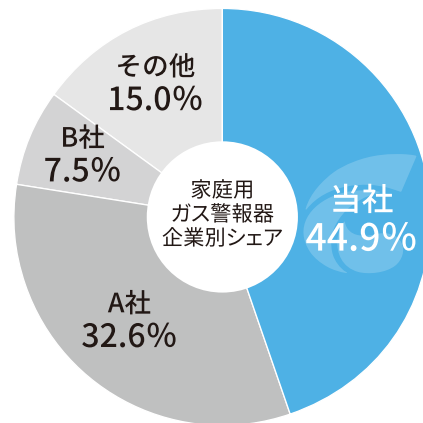
日本の家庭用ガス警報器検定合格個数



出典：ガス警報器工業会「警報器検定・検査合格月別表（令和6年度）」

販売戦略

- ・従来の電源式からMEMSメタンセンサを搭載した電池式への更新活動（電池式比率 現状約2割⇒5割までアップ）
- ・電源式に比べ取付作業が容易な電池式の販売を強化することで、家庭用ガス警報器全体の普及率向上に寄与



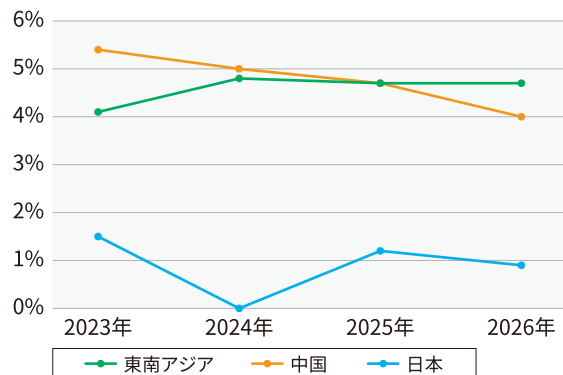
家庭用ガス警報器の
国内トップシェア



出典：(株)富士経済
「DXを実現するセキュリティ関連技術・
市場の将来展望2023」

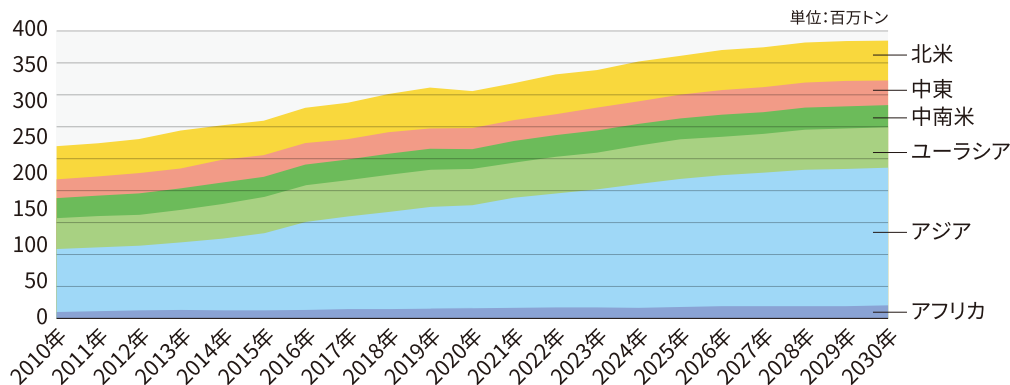
経済成長著しいアジア地域において、LPガスの安全利用のためLPガス警報器の普及を進めます。

アジア各国の経済成長率



出典: WORLD BANK GROUP「Global Economic Prospects, JANUARY 2025」
「アジア経済見通し(ADO) 2025年4月版」アジア開発銀行(ADB)

世界のLPガス消費量の見通し



出典: 世界LPガス協会 Statistical Review of Global LPG 2023

販売戦略

- ・ タイ事務所の現地法人化
- ・ 家庭用電池式LPガス警報器の普及活動
- ・ 産業用LPガス検知警報器の拡販



家庭用電池式
LPガス警報器
(開発中)



産業用
LPガス検知警報器

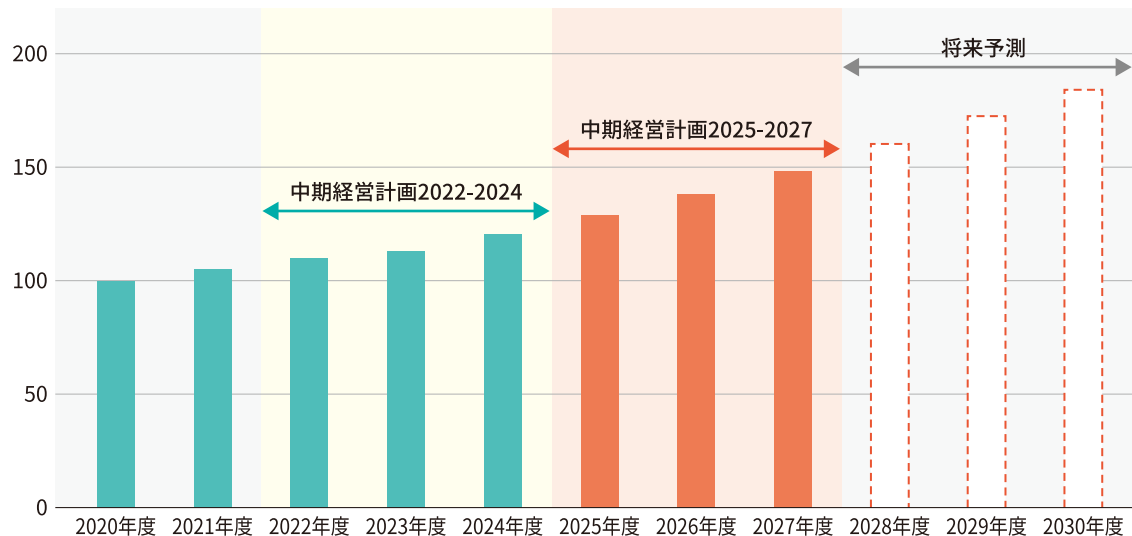
工業用定置式ガス検知警報器・業務用携帯型ガス検知器は定期的なメンテナンスが必要です。
メンテナンス事業の稼働率向上および売上拡大を図ります。

事業戦略

- ・点検率向上の取り組み強化
- ・点検情報のDX化による業務効率化

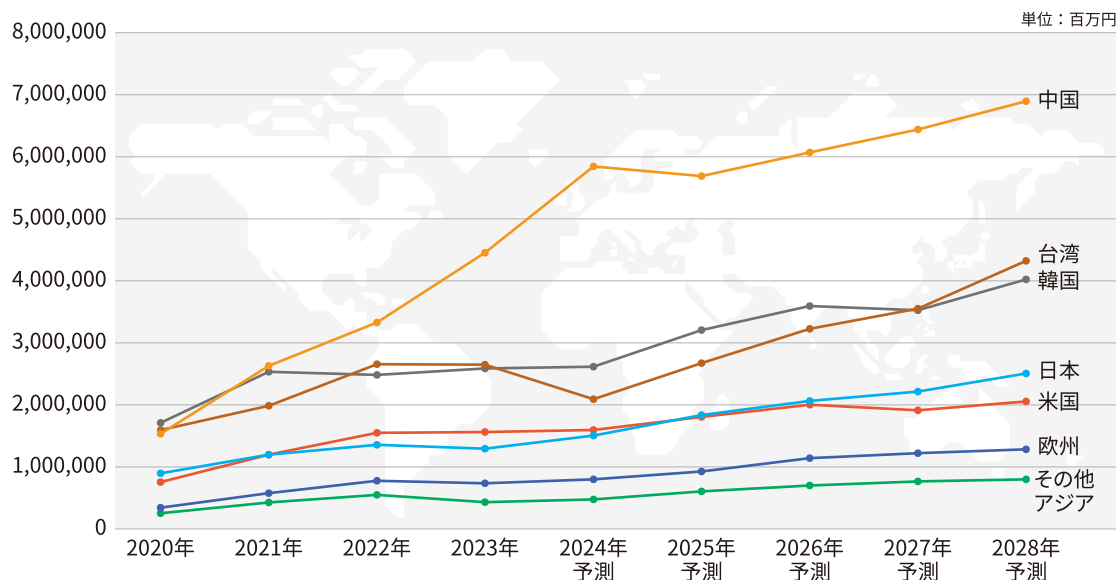


メンテナンス事業の売上推移（2020年度を100とした伸び率）



世界的に拡大を続ける半導体市場において、新製品の販売を強化し売上拡大を図ります。

世界半導体製造装置・試験・検査装置市場の推移(地域別)



出典：2025-04-18 世界半導体製造装置・試験・検査装置市場年鑑 2024



半導体市場向けガス検知器

世界初のコスモス式

校正済みのセンサを現場で交換することで、現場でのガス校正が不要でランニングコスト削減。

世界初のガスセンサで シランを高感度検知

独自の熱線型半導体式センサでシランを高感度検知。長寿命化を実現。

オンリーワンの 熱分解コンバーター一体型センサ

NF₃、COS検知において熱分解コンバーター一体型センサを開発。
コストパフォーマンス向上。

① 車載用水素ディテクタ



トヨタ自動車のMIRAIに採用

2021年3月よりトヨタ自動車(株)のMIRAI(ミライ)に採用。近年では、2024年9月に「InnoTrans 2024」で披露された水素エネルギー高速列車CINOVA H2にも搭載されました。FCEV以外にも、燃料電池や水素の発電機、フォークリフトなどニーズが広がっています。

② 防爆型ガス検知部／水素火炎検知器



© 岩谷産業株式会社

水素ステーション用ガス検知警報器 国内シェア80%以上

産業分野向けに40年以上前から水素を選択的に高感度に検知するガスセンサの研究開発に着手。その技術力が認められ多くの水素ステーションで採用されています。

③ 家庭用電池式水素警報器



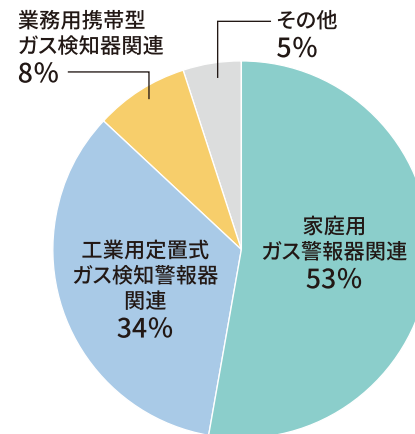
世界初の家庭用 電池式水素警報器を開発

家庭用エネルギーとして水素の導入が検討されているヨーロッパを中心に試験導入が始まっています。

3-13 「中期経営計画2025-2027」の定量目標

	2025年3月期(実績値)	2028年3月期(目標)
連結売上高	421.5億円	600億円以上
海外売上高比率	46.2%	50%以上
営業利益率	12.2%	12.5%以上
PBR	0.7	1.0
ROE	7.3%	8.5%
ROIC	6.1%	8.0%

セグメント別売上構成(2028年3月期)



3-14 「中期経営計画2025-2027」の投資計画と配当計画

投資計画

「北米向け家庭用電池式メタン警報器の生産増への対応(約20億円)」をはじめ、「成長戦略を支える新製品の開発」「海外拠点の整備」など、3年間で約80億円の投資を計画しています。

- ・ガス警報器・ガスセンサの生産増対応や、BCP対応のための設備投資
- ・海外における拠点整備のための投資
- ・MEMSガスセンサをはじめとする各種センサや、光・映像・AIを応用した新技術に対応した製品開発投資や知的財産活用に向けた投資
- ・従業員教育制度の整備、福利厚生の充実、AIなどのDX基盤、働き方の多様化への対応など、従業員の働きやすさや働きがいの向上、人材確保に向けた投資

配当計画

配当性向30%を目指し、株主の皆様への利益還元につとめます。

4

「中期経営計画2025-2027」の参考資料

成長戦略

グローバル市場におけるエリア別戦略の推進

- ・北米：家庭用電池式メタン警報器の市場拡大、冷媒漏えい検知モジュールの普及拡大
- ・アジア（日本含む）：産業用ガス検知警報器の売上拡大、家庭用電池式メタン・LPガス警報器の普及
- ・欧州：カーボンニュートラル（水素）市場の基盤づくり

新製品・サービス戦略の推進

- ・MEMSセンサ（メタン・水素・LPガス他）を搭載したガス警報器のラインナップ拡充
- ・新エネルギー市場向け商品の企画
- ・CO検知技術を活用した差別化商品の開発
- ・メンテナンス事業の更なる質の向上

新市場開拓のための協業体制および土台づくり

- ・欧州を中心としたカーボンニュートラル（水素）市場を見据えた基盤づくり
- ・半導体市場における売上拡大
- ・販売チャネルのグループ間相互利用によるグローバル展開
- ・グループ会社との協業による新たな市場開拓（火災予兆検知、ヘルスケア）
- ・国内既存事業に加えて新規事業の検討と確立

次世代に対応したセンシング技術の確立／MEMSガスセンサの質・量の充実

- ・光・映像・AIを活用したガス検知技術の強化
- ・MEMS技術・センシング技術の高度化
- ・センシング技術によるシナジー効果を図るアライアンスの検討

基盤戦略

エンジニアリングチェーン確立による技術強化

- ・収益向上に貢献できる技術・開発からメンテナンスまでの一元管理

サプライチェーンの強化

- ・売上拡大に対応した生産体制拡張と自動化推進
- ・BCP対策

DX推進や人的資本経営による組織体質強化

- ・新時代に応じた人事制度再構築
- ・事業合理化と組織効率化
- ・サステナビリティ浸透
- ・業務のDX化

SDGsへの取り組み(豊かな地球を子孫に残すための活動)

- ・新コスモス電機グループ独自の社会貢献活動の実施
- ・2037年までにScope1、2のCO₂排出量をゼロ
- ・2050年までにScope3を含むカーボンニュートラル達成に取り組む

4-3 新コスモス電機グループの事業内容

コア技術となるガスセンサの研究開発・製造・販売から、それらガスセンサを組み込んだガス検知器・ガス警報器の開発・製造・販売・メンテナンスを一貫して行っています。

